

## 毎日新聞社主催 私学公開座談会 第30回

### 22世紀に向けて、強くしなやかに生きるチカラを育てる私学の教育 が開催されました

11月4日(日)明治大学中野キャンパスにて、毎日新聞社主催・日能研協賛「公開座談会」が開催されました。「22世紀に向けて、強くしなやかに生きるチカラを育てる私学の教育」がテーマです。このイベントは、「私学にこそある価値は何か」を根幹に置き、毎年その時に適したテーマで開催しています。

通算30回目の開催となった今回、ご登壇の学校・先生は、東洋英和女学院中学部 部長 石沢友康先生、武蔵高等学校中学校 校長 梶取弘昌先生 でした。それぞれの先生が、教師になるきっかけや今にいたるまでのエピソードも交えての自己紹介が会のスタートです。

石沢先生は、東洋英和を卒業した生徒が有名人なったり、えらくなったりする必要はまったくないと言います。大事なのは、社会の片隅でたった一人でもいいから大事にして生きていくことだと。その価値観が英和生らしさであり、そうした人が増えていくことが、世の中のためになると考えておられます。

梶取先生は、武蔵生は、恵まれている。だからこそ、「真の」エリートになってほしいと願います。

貧困に苦しむ子どもたちがたくさんいるという現実の中で、いろんなことに目配りができる人として、

自分のことだけでなく、日本全体、世界全体に目を向けられる人に成長してほしいと考えられています。

第2部のパネルディスカッションでは、女子校らしさ、男子校らしさの質問や、理科教育に対するそれぞれの学校の考え方などが出て、活発なディスカッションが行われました。男女における発達の違いや、考え方、感じ方の違いなど具体的な事例をもとに話が展開されたので、会場の皆さんにとって、わが子の将来と重ね合わせて考えることができたのではないかと思います。

子どもたちが未来志向で新たな変化を自分の中に作り出す契機、それが中学受験にあるのだと感じます。そして、その気持ちは何かを変えたい、創りたい、有為な自分になりたい、というダイナミックな行動につながる。その場が、私学の教育の中にあるのだと、この講演会から実感しました。